狼の女王の伝記

狼の女王の伝記

カタール・エリファネス　著

歴史的な人物の中で紛れもなく極悪人だとされる者はわずかしかいないが、ポテマ、いわゆるソリチュードの狼の女王には、その不名誉を受ける資格が確実にある。第三紀67年に皇室に生まれたポテマは、誕生してすぐ、心優しい人として知られていた祖父の皇帝ユリエル・セプティムニ世にその姿を披露されたのだが、きつい目つきでしかめっ面をしている赤ん坊を見た皇帝は「まるで今にも飛びかかろうとしている雌狼だ」と、つぶやいたとされる。

帝都でのポテマの少女時代は、間違いなく、初めから困難に満ちていた。父ペラギウス・セプティム王子と母キザラは、子どもたちにほとんど愛情を示さなかったからだ。兄アンティオカスはポテマが生まれた時には16歳になっていて、すでに大酒飲みの女たらしとして帝都では悪名高い存在だった。彼女の弟となるセフォラスとマグナスが生まれるのはずっと後のことだったから、しばらくはポテマが帝都の宮廷における唯一の子どもだった。

14歳になる頃にはポテマは美人としてその名を知られ、求婚者も多くいたのだが、ノルドのソリチュード王国のマンティアルコ王と結婚した。嫁いだ時にはいわばチェスのポーンだった彼女が、あっという間にクイーンに変わったと人は噂した。初老のマンティアルコ王は彼女を愛し、彼女が望む権力、全権力を委ねるようになったからだ。

翌年、ユリエル・セプティムニ世が亡くなると、ポテマの父が皇帝の座に就いたのだが、前皇帝のやりくりがずさんであったため、その時には既に資金が大きく枯渇していた。ペラギウスニ世は元老院を一旦解散し、復職を望む者には議員職を買い戻すことを強制した。第三紀97年、何度もの流産の後、ソリチュード王国の女王は息子を出産し、祖父にちなんでユリエルと名づけた。マンティアルコはすぐにユリエルを世継ぎに定めたが、女王は息子のためにもっと大きな野望を持っていた。

二年後にペラギウスニ世が亡くなり--　復讐心に燃える元議員によって毒を盛られたのだろうとする見方が多い--、その息子でポテマの兄であるアンティオカスが皇位に就いた。彼はまだ48歳であり、野性的なその種がそのうちどこかで芽を出すだろうと人々が噂していたとしてもおかしくない。歴史書に記された彼の治世の宮廷内における生活の描写は、ほとんどポルノ的でさえある。ポテマは、姦淫に対してではなく、権力の行方を危ぶんで、帝都を訪れるたびに憤慨していた。

ソリチュード王マンティアルコはペラギウスニ世が逝去した翌春に亡くなった。ユリエルが王位を継承し、母と連帯して国を治めた。むろん、ユリエルには一人で国を支配する権利があるし、そうしたかっただろうと思われる

が、この地位は一時的なものでしかないとポテマが説得したのだった。単に王国を一つ手に入れるのではなく、帝国そのものを手に入れてしかるべきだと話したのだ。スカイリム内の他の王国からソリチュードの城を訪問する多数の外交団を歓待しながら、ポテマは不平の種を彼らにも植えつけようとした。長年の間に彼女が迎えた来賓の名簿はどんどん厚くなり、ハイロックとモロウウィンドの王や女王たちの名前もその中には含まれていた。

アンティオカスは13年間に渡ってタムリエルを治め、道徳面でのだらしなさにもかかわらず、指導者としては有能であることを証明してみせた。ポテマが呪文をかけて兄の命を奪ったと記している歴史家も何人かいるが、その証明の手がかりはすべて時の流れの中で失われている。いずれにせよ、彼女と息子のユリエルはアンティオカスが亡くなった第三紀112年に帝都の宮廷を訪れ、アンティオカスの娘であり後継者に指名されたキンタイラの即位に対して即座に異議申し立てをした。

ポテマが元老院に対して行った演説は、弁論術を学ぶ学生たちにとっては大いに参考になるに違いない。

彼女はまず、追従と卑下から話を始めた。「我が友人であり、この上ない威厳と見識を兼ね備えておられる元老院議員の皆さま、一地方の女王に過ぎない私ではございますが、皆さまがすでに思案されているであろう問題をあえてここに持ち出さずにいられません」

さらに彼女は、欠点をものともせず愛される支配者であった亡き皇帝を褒め称えてみせた。「真のセプティム家の男として、また偉大なる戦士として、兄は--　皆さま方のご助言を得て--　無敵とされた隣国ピアンドニアの大軍も掃討しました」

しかしほとんど時間を無駄にすることなく、彼女は肝心な点へと話を進めた。「残念ながらマグナ女帝は、我が兄の好色な気質を満たす手立てを何も取りませんでした。実の話、帝都のスラム街にいる娼婦の誰よりも数多くのベッドに横たわった経験を女帝はお持ちなのですが。もしも宮廷内の寝室でのお勤めをもっと誠実にやっておられれば、皇帝には本当の後継者ができていたはずです。我こそは皇帝の子だと言い張る、あの頭の弱い、腰抜けの畜生みたいな連中ではなく、本当の後継者がです。キンタイラとかいう娘はマグナと衛兵隊長との間にできた子だと広く信じられております。あるいは溜め池の掃除係の青年とマグナの子かもしれませんわね。確かなことは分かりません。我が息子ユリエルほど血統が明確な子は他にいないのです。ユリエルこそがセプティム王朝の末えいです」

ポテマが雄弁を振るったにもかかわらず、元老院はキンタイラが皇位を継承し、女帝キンタイラ二世となることを認めた。ポテマとユリエルは憤慨してスカイリムに戻り、反乱軍の結集に取りかかった。

レッド・ダイヤモンドの戦いについては他の歴史物語に詳細が綴られている。第三紀114年に女帝キンタイラ二世がハイロックで捕らえられて処刑されたことについてここで詳述すべきではないだろうし、その7年後、ポテマの息子ユリエル三世が皇帝に即位したことについても同様だろう。ポテマの兄弟でまだ生き残っていたセフォラスとマグナスは、帝国およびポテマを相手に長い戦いを挑み続け、内戦によって帝国の平穏はかき乱された。

第三紀127年、ユリエル三世がハンマーフェルにおけるイキダグの戦いで叔父セフォラスに挑んでいた時、ポテマは、自分にとってはもう一人の弟であり、ユリエルにとってはやはり叔父であるマグナスと、スカイリムでファルコンスターの戦いを繰り広げていた。最も手薄になっていたマグナスの側面からポテマが攻撃を仕掛けようとしていたその時、息子が敗北して捕らえられたという知らせが届けられた。61歳になっていた狼の女王は激怒して駆けつけ、自ら率いて猛攻撃をかけた。これは成功し、マグナスとその軍は退却した。その勝利を祝福しているさなか、息子である皇帝が、帝都で裁判にもかけられないうちに怒り狂った群衆によって殺されてしまったという知らせがポテマの耳に入った。ユリエルは乗せられていた馬車ごと燃やされて死んだのだった。

セフォラスが皇帝即位を宣言すると、ポテマの憤激は手がつけられないほどになった。デイドラを召喚して戦わせ、死んだ敵を死霊術師に蘇らせてアンデッドの戦士としながら、セフォラス一世の皇帝軍に執ように挑みかかった。彼女の乱心が膨れあがるに従って同盟者たちは離れて行き、しまいには、長年に渡って招集したゾンビとスケルトンのみが唯一の友軍となった。ソリチュード王国は死者の国になった。腐りかけたスケルトンの侍女に身の回りの世話をしてもらい、吸血鬼の将軍たちと一緒になって戦争計画を練る年老いた狼の女王の姿に、臣下の者たちも身震いした。

第三紀137年、1ヶ月に渡って城を包囲攻撃された後、ポテマは亡くなった。90歳だった。生存中の彼女は、ソリチュードの狼の女王であり、ペラギウス二世の娘であり、マンティアルコ王の妻であり、キンタイラ女帝二世の叔母であり、ユリエル皇帝二世の母であり、そしてアンティオカス皇帝とセフォラス皇帝の姉だった。彼女の死から3年後、セフォラスが亡くなり、彼の-- そしてポテマの-- 弟であるマグナスが即位した。

死によってもポテマの悪名が薄らぐことはほとんどなかった。直接的な証拠はほとんどないが、彼女のスピリットがあまりにも強力であったため、その死後はデイドラとなり、生者たちを狂った野望と裏切り行為へと駆り立て続けていると主張する神学者たちもいる。また、彼女の乱心がソリチュードの城にあまりにも強く注ぎ込まれたため、城を次に支配した王にも乱心が感染したとも言われている。皮肉なことにその王というのは、当時18歳だった彼女の甥ペラギウス、つまりマグナスの息子だった。伝説の信ぴょう性については何とも言えないが、皇帝ペラギウス三世の称号を受けるために第三紀145年にソリチュードを離れたペラギウスが、ほどなく狂帝ペラギウスとして知られるようになったことは紛れもない事実である。父マグナスを殺害したのは彼だという噂も広く行き渡っている。

狼の女王も草葉の陰でそれを聞いて、大いに笑ったことだろう。

狼の女王の伝記

FormId	skyrim.esm:01B023
Owning plugin	skyrim.esm
Local FormId	01B023
Editor ID	SkillSpeechcraft5
Inventory image	(none)
Menu art	HighPolyBasicBook05
Value (gold)	60
Type	Book or tome
Weight	1
Can be taken	Yes
Teaches	Skill: 話術
Inventory description	(none)
Keywords	VendorItemBook, GiftThiefSpecial
Locations	6
Leveled lists	0
Scripts	0

© Bethesda Softworks LLC and the authors of the mods in the load order.
Exported and generated with SkyrimSourceExporter.